

1995～2000「みらさか平和の集い」コンセプト一覧

開催日	コンセプト	企画概要
1995/8/6	<p>被爆・敗戦50周年 平和と人権が文化を創る 人それぞれの命と暮らしを大切にすること それが平和と人権です それが文化を育みます</p>	<p>①大壁画「翔べ永遠に」制作 ②吉行和子講演会 ③沖田孝司コンサート ④「原爆の因・高張提灯」を中心に平和美術展 ※9月6日から核実験抗議の座り込み開始</p>
1996/8/11	<p>被爆・敗戦50年プラス1 私たちは現在(いま) 沖縄の心を三良坂に結び 私たちの現在(いま)と未来(これから)を三良坂で考える</p>	<p>①非核自治体宣言10周年記念式典 ②ザ・ニュースペーパー公演 ③対談 知花昌一×松崎菊也</p>
1997/8/7	<p>私たちは現在(いま) 三良坂のこだわり 暮らしと営み編 平和を願う会がいろいろな取り組みをはじめて11年目を迎えました そしてこの6月、三良坂町は新しい長期総合計画を策定しました そこで今回は平和公園の800基の灯ろうの中で 三良坂の暮らしと営みを見つめ 21世紀のまちづくり＝私たちの現在(いま)と未来(これから) を考えてみたいと思います 平和と人権と文化という言葉にこだわりながら…</p>	<p>①八束はじめ講演会 ②まちづくり座談会&ミニコンサート 原田奈翁雄・知花昌一・佐藤晶・渡辺正憲・ 村本千枝子・沖田孝司 関連 朗読劇 「この子たちの夏-1945ヒロシマ・ナガサキ-」 (地人会公演)</p>
1998/8/6	<p>私たちは現在(いま) 三良坂のこだわり 暮らしと芸術そして平和と人権 核実験に抗議する三良坂での座り込みは15回を重ね 参加者はのべ千人をこえました わたすの母子像前に座り込むこと 平和公園を幾百もの灯ろうで照らし出すこと それは一人ひとりの命と暮らしを大切にしたいと願う 私たちの心の表現です 平和と人権を暮らしの文化として育む町づくり 世界中の人々とつながりあおうとする私たち そんな私たちの町づくりへのこだわりを 「暮らしと芸術そして平和と人権」という視点から 考えてみたいと思います</p>	<p>①映画「夏少女」上映 ②まちづくり座談会&ミニコンサート 早坂暁・永松千春・佐々木情子・多賀祐司・ 奥井智裕 ③ピースアート展 (湯布院・空想の森美術館との連携)</p>
1999/8/3	<p>平和のために、今私たちができること ユーゴスラビア、コソボへの空爆は、 そこに住む人々に多くの戦禍を与えました アメリカ、ロシアをはじめ核実験は絶えることがありません 日米防衛協力の指針(新ガイドライン)の関連諸法に対して 多くの自治体から慎重審議の意見書が国会に寄せられました 沖縄の現実はやはり基地の島です 平和のために 今私たちができることを考えてみたいと思います 平和公園を埋め尽くす幾百の灯ろうの中で 過ちを二度と繰り返さないために</p>	<p>①灰塚神楽団公演 ②大田昌秀講演会 ※「三良坂町被爆二世の会」結成アピール 8月6日結成 8/6 FM広島 三良坂広島二元中継</p>
2000/8/9	<p>あなたの思いをわたしの未来に この4月 三良坂町に山代巴記念室が開設された 作家山代巴は戦中戦後の困難を生きた農村の人々に 日本国憲法の精神である人権と平和を深く求めようとした 戦後55年を経過しようとする今日 戦中戦後の困難と日本国憲法の精神は 人々の脳裏から遠ざかろうとしている だから、山代巴の仕事を私たちは受け継ぎたい 世代を超える Toshi の歌声とともに</p>	<p>①戦中戦後の困難を語る 宮脇祥・森久梨絵・加藤啓介 (以上小学6年生) 原田京子(被爆2世)・半田孝江(被爆者) ②トシ・アコースティックライブ 関連 8/1「夏の約束」(はぐるま座公演) 8/6 ガイドボランティア 日本被団協代表理事に 三良坂町の藤川一人さんが選出される</p>
<p>2000年の特徴 それは憲法問題</p>	<p>2月 狭山共闘集会で憲法問題(平成20年問題)提起 4月 メーデーに向かった青年部憲法問題学習会 山代巴記念室オープン(戦中戦後の困難と憲法の精神) 5月 青年部 メーデーに「憲法調査会」デコレーション出品 優勝 6月 平和の集いコンセプト、憲法問題を指定 衆院選、町職労は護憲を基準に社民党を党派選択 7月 青年部 施設ガイドボランティア、詩「わたすの母子像」群読学習開始 8月6日 朝の平和の集い&ガイドボランティア 9日 戦争・核・差別を許さないみらさか平和の集い2000 18日 アメリカ臨界前核実験 抗議座り込み(50人) 9月5日 ロシア臨界前核実験(87人)</p>	